

令和2年度 JS 国際戦略室のご紹介

国際戦略室

1. はじめに

平成23年4月、JSの国際展開の役割を担うため「国際室」が発足しました。その後、平成27年4月に「国際戦略室」に改称し、早いもので10年目に突入しました。今年度初めのメルマガでは、国際戦略室の業務やメンバーをご紹介します。

2. 国際戦略室の業務

JSはこれまで、専門家派遣、研修などを行うとともに、我が国技術の海外展開を促進するために国際標準化や海外向け技術確認などを実施してきました。今後、「海外社会資本事業への我が国事業者の参入の促進に関する法律（海外インフラ展開法）」に基づいて、海外下水道の案件形成段階での支援とともに、川上から川下までのどのフェーズにおいても本邦企業の支援を行うことが求められるものと考えています。海外インフラ展開法の施行により、これまでの取り組みに加えて、海外下水道プロジェクトの案件形成の実施、設計監理・入札・施工監理・処理場運転管理の支援をして参ります。本邦技術のスペックインを図るとともに、プロジェクト自体の信頼性を高めるようなチェック機能を果たすことがJSに求められる役割であると考えられます。

具体的には、海外下水道プロジェクトの川上の段階では、JSの持つ基準類や基準作成のノウハウを駆使して、川中や川下段階で日本の民間企業の技術がスペックインできるような案件形成や設計支援をしていきたいと考えています。

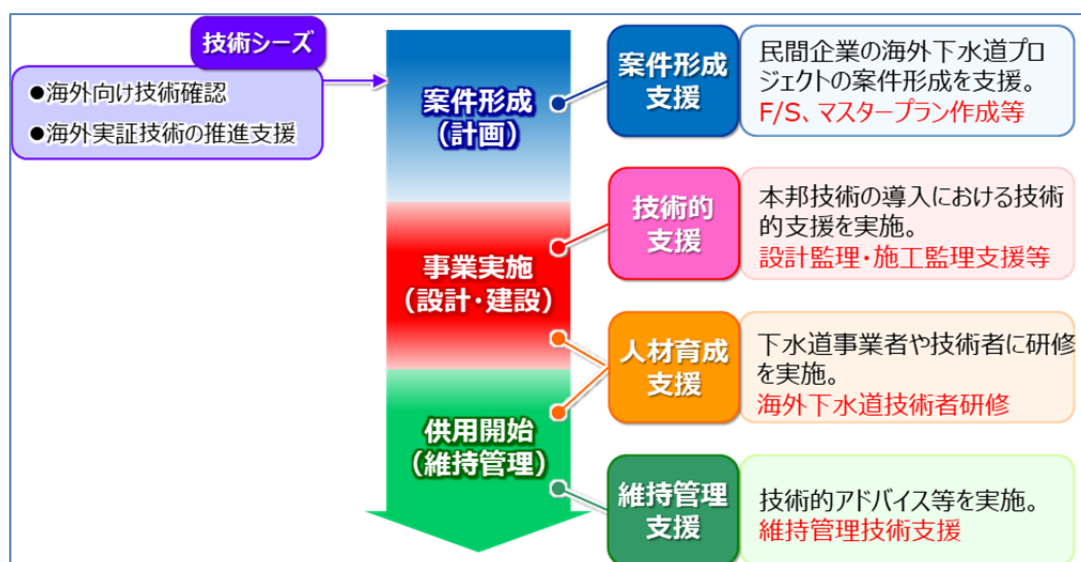


図 海外下水道プロジェクトの各フェーズでのJSの支援

3. 令和2年度国際戦略室メンバーのご紹介

今年度は、昨年度にも増してJSの国際業務を実施する体制が強化されています。以下に国際戦略室メンバーが自己紹介をいたします。

① 室長：矢野 知宏

4月1日より国際戦略室長を務めることになりました矢野です。

昨年度まで、近畿・中国総合事務所、西日本設計センターと4年間関西に赴任していました。これまで国内業務の傍ら、国際戦略室の業務はなんとなく聞いている程度でしたが、実際に着任して、過去の業務内容を確認していると、かなり色々なことをやっています。

国内業務は、多くのケースで委託団体・JS・受注者の関係にて業務を進めていきますが、国際業務は、関係する組織も多く、多様なアプローチで実現に向けていくものがほとんどのため、情報収集が重要で、他組織との関係力を増していくほど、仕事がうまく進むと感じているところです。

平成30年8月に海外インフラ展開法が施行され、JSが下水道インフラの海外展開を強力に推進する組織に位置付けられたこともあり、今は、各種案件の進展に着実に貢献し、国際業務におけるJSの存在価値を高めていく段階ではないかと思っています。

私自身は国際業務の経験は少ないのですが、国際業務の経験豊かな職員にも恵まれ（以下に紹介がありますが）、何とかJS内外の期待に応えられ、また関心も得られるように頑張っていきたいと思います。

②調査役：佐々木 稔

4月1日より国際戦略室調査役（国際）を拝命しました佐々木です。

昨年度まで2年間は北海道総合事務所勤務で、その前は下水道事業支援センター1年×2回と間にJICA本部5年の、計7年間出向先で国際業務に関わってきました。着任しJSの国際業務の資料を確認していて、過去に携わった各国の下水道案件を懐かしく思い出すと共に、海外事業の常である進捗遅れが見て取れます。

JSとして、どういった国際貢献が可能なのか、考えながら業務にあたりたいと思います。

③室長代理：今島 祥治

国際業務9年目になります、今島です。日本の民間企業がお持ちの素晴らしい技術を各国の汚水管理に活かしてもらうために、下水道経営という観点は欠かせないと考えています。日本の技術の導入にはその国の下水道制度設計支援が必要ですし、技術の持続性の観点から、料金や人材育成を含む下水道経営ノウハウが必須です。JS入社以来、下水道経営に興味を持ち、下水道経営を勉強してきました。技術導入と経営はセットであるべきです！

④室長代理：辻 幸志

4月1日より国際戦略室に“再び”所属することになりました辻です。

“再び”と言いますのは、平成24～26年度に国際室（当時の名称）に所属しておりました。当時は国際室が発足したばかりで日が浅く、JSとしての国際業務の案件形成に主として取り組んでおりました。国際室を退いてから5年の月日が流れ（私自身は、「東日本設計

センター土木設計課 → 近畿地方整備局（出向）」を経験）、JSの国際業務は幅広くなってきておりますが、JSの存在価値をより一層に高められるよう努めたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

⑤監理員：内田 一弘

この度、新たなJS職員として国際戦略室に配属となりました。よろしく申し上げます。下水道の維持管理において同じ運用が行われるものは唯の一つもありません。これは、排水地区に暮らす人々の生活習慣、区域の広さや地形そして土地の利用形態、気候や風土などが原因です。このため、下水道の管理はカスタマイズと日々のバージョンアップが必要なのです。新しく下水道を始める都市は仕組みを成長させる人材の確保が急務であり、下水道導入における最初の一步は“人づくり”です。

日水量では数千トンから数十万トン、処理方式ではOD、標準活性汚泥法や高度処理、そして新設から老朽施設までの運用経験を生かして行きたいと思っております。

⑥監理員：安部 和子

2012年1月より国際戦略室（当時は国際室でした）でお世話になっています。主な業務は英語のホームページに掲載するコンテンツの英訳ですが、一昨年度からはホームページの作成もやらせていただいています。JSに来る前は、映像翻訳者を目指して学校に通っていました。残念ながら字幕制作の才能はありませんでしたが、その時習った翻訳のイロハやリサーチのノウハウは、今でもとても役に立っています。翻訳に内容の理解は欠かせませんが、JSには技術者の方がたくさん、時には執筆者ご本人もいらして、わからないことはすぐにお聞きできるのでとても助かっています。皆さん、素人の質問にもいやな顔一つせず丁寧に答えて下さるので、本当にありがたいです。ご迷惑は重々承知ですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

⑦職員：田中 松生（計画課より併任）

JS入社以来、3度目の海外業務となります。（タイ国下水道公社派遣、JICA地球環境部出向）。専門家派遣は今回で二度目となります（予定）が、建設工事、震災復興、技術開発など、これまでのJSでの経験を最大限に活かしながら、安全第一、調査研究の視点を大切に、任国での下水道事業に頑張ります。東南アジアの言語が好きです。現在は、CD学習ですがインドネシア語を習得中です。

⑧JS国際業務応援団

上記のメンバーの他にも、カンボジアにJICA長期専門家として派遣されている小松海里、JICA本部のインフラ技術業務部有償技術審査室に出向している西郷進也の2名も民間企業が海外進出をするにあたりお力添えができると考えています。

また、JS内にも国際戦略室への併任者は7名（上記の田中松生含む）おり、それぞれの得意分野を活かし、国際業務を強力に推進する体制を取っております。

4. おわりに

海外インフラ展開法が施行されて以降、国や地方公共団体、民間企業と連携した国際貢献や民間企業の海外下水道プロジェクト参入のための国際水ビジネス展開を進めるJS国際業務のメニューが広がりました。今年度も地方公共団体等の実施する国際貢献を進めるとともに民間企業の海外水ビジネスへの参入を後押しする業務を積極的に進めていきたいと考えております。

また、JS国際戦略室の体制やJSが国際業務を支援する体制も令和2年度は拡充いたしました。今年度、JSに国際の部署が設置されて10年目になりますが、初心を忘れずに全力で業務を遂行していく所存です。今後とも皆様の組織の国際貢献・海外展開戦略において、JSを効果的に活用していただければ幸甚です。

※JSの国際業務に関するお問合せは、日本下水道事業団 国際戦略室（電話 03-6361-7814、メール js-international@jswa.go.jp）まで。